

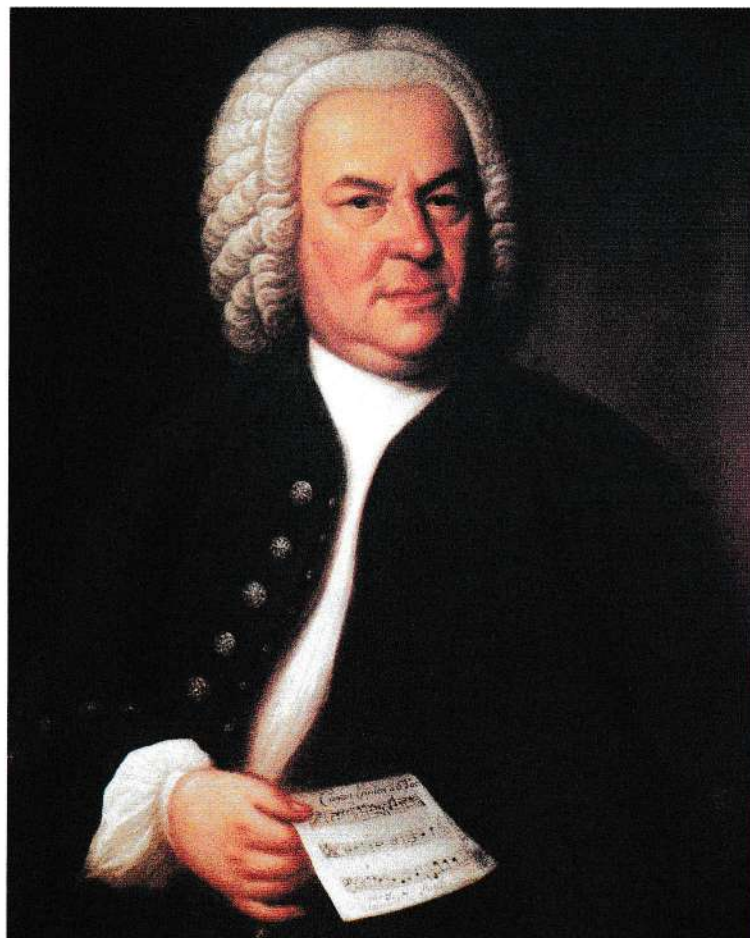
浜松のバッハ40年記念
40 Jahre Bach in Hamamatsu



浜松バッハ研究会

ミサ曲 □ 短調

Messe in h-moll BWV232



2012年10月20日(土)
アクトシティ浜松 中ホール

主催 : 浜松バッハ研究会 共催 : 豊橋バッハアンサンブル
助成 : 公益財団法人浜松市文化振興財団
後援 : 浜松市 豊橋市 (公財)豊橋文化振興財団
静岡県合唱連盟 浜松市合唱連盟 NHK浜松支局
静岡新聞社・静岡放送 中日新聞東海本社 K-MIX FM-Haro!

「浜松のバッハ40年」にあたってご挨拶

浜松と豊橋にバッハ演奏の種が蒔かれて40年になります。1973年3月21日、奇しくも大バッハの誕生日に浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブルの前身ともいえる合唱団が誕生しました。当初、古典合唱音楽研究会という勉強会から始まったこのグループは、やがて浜松ポリフォニカ・アンブロジーナ、豊橋ポリフォニカ・グレゴリアーナと名付けられ、日本におけるバッハ演奏の先駆者である故濱田徳昭氏の指導のもとバッハの大曲を中心に10年間の活動を行いました。その間、日本オラトリオ連盟のメンバーとして2度にわたる欧州公演にも参加しました。その後、浜松医科大学の合唱団浜松スコラ・カントルム及びその後継団体であるアカデミア・カントルムに浜松でのバッハ演奏の伝統は引き継がれましたが、1985年のバッハ生誕300周年を機に現在の浜松バッハ研究会が再興され、現在に至っています。

思えばこの40年の間に、浜松の音楽文化は大きな発展を遂げました。1976年の浜松交響楽団創立、1991年の浜松国際ピアノコンクール開催そして1994年にアクトシティの完成、まさに楽器の町から音楽の町への転換がなされた40年であったと思います。その中でバッハ演奏の伝統も脈々と受け継がれてきたわけです。

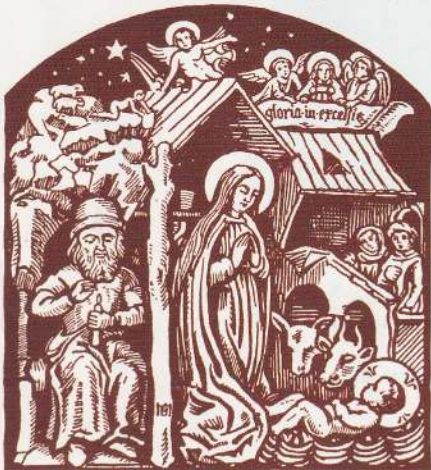
私どものこれまでの活動の中で特筆すべきは2000～2001年にかけて行ったドイツ演奏旅行です。バッハ生誕の地アイゼナハから、バッハ一族の中心地エアフルトを通過し、聖地ライプチヒまで巡る11日間の旅でしたが、その間バッハゆかりの会場で8回の演奏を行い、いずれも高く評価されました。浜松・豊橋に根付いたバッハの音楽が本場ドイツ・バッハの故郷で認められた瞬間でした。

いま私たちは三澤洋史先生という素晴らしい指導者の下に、現代に息づくバッハの音楽を求め続けていますが、この「浜松のバッハ40年」の節目に「ミサ曲短調」をとりあげました。バッハが最晩年に至るまで推敲を重ねた人類最高の音楽遺産といわれるほどの名曲ですが、特に終曲「Dona Nobis Pacem 我に平安を与えたまえ」は究極の「癒しの音楽」と言われています。東日本大震災、福島原発事故など不安の尽きない現代において、私たちは世界の平安を祈りながらこの大曲を演奏したいと思います。皆様方にこの祈りが届けば幸いです。

では本日の演奏をごゆっくりお聴き下さり、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

浜松バッハ研究会代表 河野周平

J.S.Bach生誕300年記念公演
クリスマス オラトリオ
 Weihnachtsoratorium BWV 248 (第1部～第3部)



指揮 山本 智子・酒井 美知江・佐光寺 智・渡部 成哉
 合唱 浜松・豊橋バッハ研究会合唱団・管弦楽団
 指揮 河野 周平 改訂 北川 晴子 (原・ハンズ・グレンジャー)

1985年12月26日(木) 19時開演
 遠州栄光教会(住吉・せいれい病院西)
 入場料 一般1500円 学生1000円
 主催: 浜松・豊橋バッハ研究会合唱団・管弦楽団 (問い合わせ先 05358-6-5584 河野)

チケットのお求めは 日本楽器 浜松店 3F 楽譜売場へ



左は1985年のバッハ年、浜松バッハ研究会再興時の演奏会チラシ。

上は2001年、世紀の変わり目を実施したドイツ演奏旅行の様相。まさに大バッハが礼拝の演奏を繰り広げていた聖トーマス教会の聖歌隊席で新年のカンタータを歌った時の写真。現在の聖トーマス教会カントール、ビラー氏とヴォルフ牧師から祝福を受ける三澤洋史率いる浜松バッハ研究会合唱団・管弦楽団。

上演曲目

ヨハン・セバスチャン・バッハ作曲

Johan Sebastian BACH (1685-1750)

ミサ曲 短調

Messe in h-moll BWV232

MISSA / Kyrie, Gloria
ミサ / キリエ、グローリア

休憩(15分) Intermission (15 Min.)

SYMBOLUM NICENUM (CREDO)
ニケア信条 (クレド)

SANCTUS
サンクトゥス

OSANNA, BENEDICTUS, AGNUS DEI ET DONA NOBIS PACEM
オザンナ、ベネディクトゥス、アグヌス・デイ と ドナ・ノビス・パーツェム

(終演予定 17:30)

出演者 プロフィール

指揮者：三澤洋史（みさわ ひろふみ）

群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。1984年ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。バッハに深く傾倒しており、マタイ、ヨハネ両受難曲、ロ短調ミサ曲など全て暗譜でレパートリーに有する。2000年暮れから2001年初めにかけての浜松バッハ研究会ドイツ演奏旅行では、エアフルト、ハレでのロ短調ミサ曲成功に加え、ライブチヒ聖トマス教会の新年音楽礼拝を聖トマス教会聖歌隊に代わり務めた。1999年より2003年までパイロイト音楽祭にて祝祭合唱団の指導スタッフの一員として従事。この経験を生かし、ワーグナーのスペシャリストとして講演や放送の分野でも活躍。2001年9月からは新国立劇場合唱団合唱指揮者に就任。新国立劇場の全公演に合唱指揮者として関わる。2003年9月からの一年間は音楽ヘッド・コーチも兼任。声楽を伴うあらゆる様式の音楽に精通。言葉と音楽、ドラマと音楽の接点を追求している。作品にミュージカル「おにころ」「愛はてしなく」「ナディーヌ」などがある。東京藝術大学、愛知県立芸術大学、京都教育大学非常勤講師や、名古屋芸術大学客員教授、及び滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール専任指揮者などを経て、現在新国立劇場合唱団指揮者、洗足学園音楽大学客員教授。東京バロックスコラーズ音楽監督、浜松バッハ研究会、志木第九の会、名古屋モーツァルト200合唱団常任指揮者。



ソプラノ：國光 ともこ（くにみつ ともこ）

武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科を卒業後、愛知県立芸術大学大学院に学ぶ。新国立劇場オペラ研修所を修了後、文化庁芸術家在外派遣研修員としてイタリア・ボローニャに留学。平成15年から新国立劇場に於いて、ガッツァニーガ《ドン・ジョヴァンニ》、《オルフェオとエウリディーチェ》、《フィガロの結婚》、《ペレアスとメリザンド》、《影のない女》、《ばらの騎士》、《パルジファルとふしぎな聖杯》に出演するほか、東京芸術劇場《イリス》、横須賀芸術劇場《ダイドーとイニーアス》など出演。コンサートでは平成21年読響定期メンデルスゾーン《賛歌》をはじめ、《ミサ曲ロ短調》、《マニフィカート》、《メサイア》、ハイドン《ネルソン・ミサ》、モーツァルト《レクイエム》、ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》、《第九》、シューベルト《ミサ曲第5番》、フォーレ《レクイエム》、《カルミナ・ブラーナ》等のソプラノソロを務める。二期会会員。浜松バッハ研究会とは2010年のメサイア以来、二度目の共演である。



メゾ・ソプラノ：三輪 陽子（みわ ようこ）

愛知県立芸術大学音楽部声楽専攻卒業。同大学院音楽研究科声楽専攻修了。第5回国際ワーグナー歌唱コンクール第派遣対象者国内オーディション最優秀賞と特別賞を受賞。平成20年度新進芸術家海派遣制度在外研修員としてイタリアとオーストリアに留学。新国立劇場オペラ公演で、2004年シュトラウス作曲「エレクトラ」下女2、2006年マスカーニ作曲「カヴァレリアススティカーナ」ルチア、三木稔作曲：瀬戸内寂聴台本「愛怨」影巳、「西部の娘」ウォークル、2007年「ワルキューレ」シュヴェルラテ、同劇場の鑑賞教室では「蝶々夫人」スズキを演じピロードのようなコントラアルトの響きを持つ希少なメゾソプラノとして好評を博す。宗教曲のソリストとして、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」「ハ短調ミサ」「レクイエム」「ミサ・プレビス」「雀のミサ」「ミサロンガ」、バッハ「ミサ曲ロ短調」「ヨハネ受難曲」、ロッシニ「小荘ミサ」、ヴェルディ「レクイエム」、ドヴォルジャーク「スターバトマーテル」など数々の宗教曲・オラトリオのアルトソロとして出演している。コンサートではベートーベン「第九交響曲」や「マーラーの「大地の歌」などのソリストとしても活躍している。浜松バッハ研究会ヴォイストレーナー、二期会会員。



テノール：畑 儀文（はた よしふみ）

兵庫県篠山市生まれ。大阪音楽大学大学院修了。小林道夫の伴奏による初リサイタルを行う。以後ソリストとして、ペーター・ダム（ホルン）との共演、イェルク・デームス（ピアノ）ロジャー・ヴィニョールズ（ピアノ）との数多くのリサイタル等大きな成果を収めた。91年オランダ・アムステルダムで高名なバロック歌手マックス・ファン・エグモントのもとで研鑽を積む。以後オランダ各地で毎年受難週には、エヴァンゲリストとして招かれ、近年はドイツ・ライブチヒにおいてバッハ作品のソロを務める。93～99年3月にかけてシューベルト歌曲全曲演奏を成し遂げ、国内外で話題を集めた。日本コロムビアからCD「日本のうた」「新しい日本のうた」「トスティ歌曲集」「昭和のうた」「美しき水車小屋の娘」をリリースし、その天性の歌声はジャンルを問わず心に響く感動を呼び、注目を集めている。「大阪文化祭本賞」「咲くやこの花賞」「大阪府民劇場奨励賞」「坂井時忠音楽賞」「兵庫県芸術奨励賞」「兵庫県文化賞」等多数の賞を受賞。丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば音楽監督。



Photo by
EIJU SHIMOMURA

バリトン：初鹿野 剛（はつかの たけし）



御殿場市出身。清水南高芸術科卒業。東京藝術大学ならびにドイツ・カールスルーエ音楽大学から修士号を授与される。文化庁派遣芸術家在外研修員。ドイツ・ワグナー奨学財団奨学生。「芸大メサイア」の独唱者として楽壇にデビュー以来、コンサートにおける交響曲・宗教曲の独唱者として活動を開始。その後、オペラの分野においてもドイツ主要音楽祭、日本では新国立劇場・日生劇場・兵庫PAC・東京二期会等の各プロダクションで活躍。静岡県内においても浜松バッハ研究会をはじめ静岡交響楽団・浜響・沼響・富士フィル・清水フィル等の諸団体と共演。第一回「静岡の名手たち」オーディション合格。五島記念文化財団オペラ新人賞、藤沢オペラコンクール第一位・福永賞等受賞多数。桜美林大学ならびに常葉学園短期大学非常勤講師。静岡音楽館 A01 市民会議委員。二期会会員、日本演奏連盟会員。

コンサート・ミストレス：北川靖子（きたがわ きよこ）



北川靖子

W. シュタフォンハーゲン教授に師事。東京藝術大学卒業。1971年、オーストリア国立ウィーン音楽大学入学、ヴァイオリンを F. サモヒール教授に、室内楽を F. ホレチェック教授に師事。1975年、ウィーン音楽大学を全教授一致の最優秀で卒業。ザルツブルク・ミラベル宮殿、東京でリサイタル。1976年、ハンブルク交響楽団に入団、コンサートミストレスに就任。1981年、ハンブルク市文化局主催コンサートでリサイタル。1985年12月～91年12月、姉・北川暁子と25回の「ドゥオの夕べ」を開催。1987年、東京でリサイタル。1989年、北川暁子、千本博愛と「セルヴェ・トリオ」を結成、以後毎年演奏会を開催。1992年以降は北川暁子との「ソナタの夕べ」を毎年開催している。現在、2001年11月に高松に設立された瀬戸フィルハーモニー交響楽団コンサートミストレス。

浜松バッハ研究会・管弦楽団には1985年の創立以来、ほとんどの演奏会に参加。

オルガン：花井 淑（はない とし）



三重県桑名市生まれ。名古屋音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専修卒業。同大学卒業演奏会、三重県新人演奏会に出演。大学在学中より名古屋・カトリック五反城教会に於いてパイプオルガンの勉強を始め、オルガンに住山玖爾子、本田七瀬、故 F. ボーンの諸氏に師事。また、Z. サットマリー、故 A. シェーンシュテット、H. フォーゲルの諸氏によるオルガン・マスタークラスに参加。1982年～1986年、名古屋音楽大学嘱託研究員を経て、現在、カトリック五反城教会オルガニスト、五反城教会オルガニスト養成コース講師。東京福祉大学非常勤講師。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会、日本リードオルガン協会、立教大学教会音楽研究所友の会、名古屋バロック音楽協会各会員。ソリスト及び通奏低音奏者として活躍中。2000年10月、岐阜県民ふれあい会館サラマンカホールに於いて、故高円宮殿下、同妃殿下のホールご視察の際には御前演奏をした。また、2000年暮れから2001年初頭にかけて「浜松バッハ研究会」ドイツ演奏旅行にオルガニストとして同行し、ライブツィヒ・聖トーマス教会の新年音楽礼拝で演奏した。三重県桑名市在住。

ピッコロトランペット：松野 美樹（まつの はるき）



1965年三重県四日市に生まれる。13歳より愛好家の手ほどきによりトランペットを始め、15歳より田中昭氏に師事、17歳より北村源三氏に師事し、1985年東京藝術大学音楽学部器楽科入学。在学中、北村源三氏に師事しながら、バッハカンタータクラブにて小林道夫氏にバロック音楽の教えを受け、卒業後も薫陶を受ける。1989年に同大学を卒業。以来、フリーのトランペット奏者として、ソロ、オーケストラ、室内楽、吹奏楽等の演奏を積極的に行う。特に、バロック音楽の分野において明るくピュアで華やかな音色と色彩感のある音楽性で、ピッコロトランペット奏者、バロックトランペット奏者として各地にて、ソリスト、及び客演第一奏者（バッハやヘンデル等の作曲家を中心とした作品）として活躍し高い評価を受ける。2000年に、弘前バッハアンサンブルのヨーロッパ公演にバッハのロ短調ミサの客演第一奏者として参加、2002年には同アンサンブルのロシア公演に参加して好評を得る。2004年に名古屋フィルハーモニー交響楽団のヨーロッパ公演にエキストラとして参加。2007年にはソウルにて行われたヘンデルのオペラ”リナルド”にオーケストラ・カメラータ・アンティーク・ソウルの客演奏者として参加しバロックトランペットを演奏。2009年に再びソウルを訪れてメサイアをバロックトランペットにて演奏。2010年に横浜開港記念会館にてブランデンブルグ協奏曲第2番をバロックトランペットにて演奏。今年9月には渡独して現地の古楽オーケストラとロ短調ミサなどを共演。

浜松バッハ研究会・管弦楽団

浜松交響楽団、浜松室内楽愛好会、カペラ・アカデミカ、ソナス・アンサンブル、浜松バロック協会、掛川市民オーケストラ、ヤマハ吹奏楽団などから、バッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、バッハ研究会公演の度に組織される。レベルの高いアンサンブルで好評を得ている。

1 st Violin	北川 靖子	長谷川 悠	篠田侑香里	松嶋 朗生	中村 尚子
2 nd Violin	小野 弘達	田邑 利香	東儀 温	浅田 仁志	
Viola	小林 勝	小林はる奈	五家 和夫		
Cello	神農 清志	小野 祐子			
Contra Bass	田邑 元一				
Flute	木村伊都子	渡辺 幸実			
Oboe	大橋 弥生	村瀬 正巳	佐藤 慶子		
Horn	末永雄一郎				
Fagotto	曾布川利貞	高木 麻衣			
Trumpet	松野 美樹	松本真智子	庭田 俊一		
Timpani	今泉 好雅				

浜松バッハ研究会・合唱団

バッハ生誕300周年の1985年に結成され、マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、ロ短調ミサ曲などの大作や、クリスマス・オラトリオ、カンタータ、モテットなどを取り上げ管弦楽団と共に上演している。2000年にドイツ演奏旅行を行いライブチヒの聖トーマス教会で演奏した。常任指揮者として我が国バッハ演奏の権威である新国立劇場指揮者の三澤洋史氏を招き、バッハの音楽を深く学びつつその魅力を多くの皆様にお伝えすべく、姉妹団体である豊橋バッハアンサンブルと共に活動を続けている。

練習指揮者	早川 美香		ピアノ伴奏者	宮本いずみ	
Soprano I	河合 良子	中村 修子	丹羽多美子	松尾 武師	
Soprano II	今村 陽子	岡田 彩子	川瀬 綾子	早川 美香	吉井 康子
Alto	金子 恒江	鬼頭 計枝	鈴木 理恵	側島 玲子	
	細倉ゆずる	森田 啓子	山田 智子	山田セキ子	
Tenor	柴原 貞幸	鈴木 洋一	丹羽 哲也	早川 徳次	
Bass	生駒 修治	大村 忠宏	河野 周平	重富 政秀	高木 良樹
	戸島準一郎	松本 有三	宮 秀雄	山田 和典	横山 茂

豊橋バッハアンサンブル

バッハを歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理…という豊橋在住の人達が集まり、1994年8月にできた合唱団が豊橋バッハアンサンブルで、いわば浜松バッハ研究会の分身。毎週豊橋で練習し、三澤先生の練習があるときは、浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に参加している。

練習指揮者	田辺菜美子		ピアノ伴奏者	高木 克子	
Soprano I	金子ますみ	白井登枝江	西村 陽子	水野 佳乃	村上 明子
Soprano II	伊津野泰子	三宅ゆりの			
Alto	安藤美津恵	小林 益世	浪崎 加代	彦坂 克美	馬淵 京子
Tenor	伊津野真一	川口 強	村上 裕二		
Bass	安藤 佑治	駒沢 真司	安井 研一		

演奏会スタッフ

ステージ・マネージャー	内海 直人	フロア・マネージャー	河野 真剛		
竹原新太郎	青木 真美	森 隆志	杉山 潤子	黒田 浩子	河野 善子
松島 和子	白浜 太郎	長谷川明子	長谷川正仁	早川 桃代	重富 和代
門林 映美	宮本 芳美	録音：福本 信夫		ビデオ撮影：志村 憲宏	

浜松・豊橋「J. S. バッハ事始め」

新井 治男

勤務する香料会社の人事異動で私が磐田に赴任したのは1972年の1月、今からちょうど40年前のことです。はじめの1年余りは新工場の試運転に昼夜を問わず忙殺されていましたが、ようやく一息ついた翌73年の春先、久しぶりにそれまで住んでいた東京で参加していた合唱団「コーロ・ポリフォニコ」の練習にOBとして出席する機会を得ました。

練習終了後、このグループの指揮者であった濱田徳昭先生にご挨拶したところ、先生から「もし君が明日磐田に戻るなら、私も講義のために豊川にある日立製作所の家電研究所に出張するので同行しないか」とのお誘いをいただき、初めての新幹線グリーン車で東京から浜松まで同行することにしたのです。

車中で先生は「日立の家電研には東北大学の合唱団にいた若林学君が、浜松の日本楽器（現ヤマハ）には九州芸術工科大学（現九州大学）出身で教え子の河野周平君がいるので、一度連絡を取ってみてはどうか。話がまとまれば豊橋か浜松での音楽活動に私がお手伝いできるかもしれない」というお話をされました。

それまで音楽活動を封印していた私にとっては願ってもないお話で、後日先生からいただいた連絡先に電話をしたところ、若林・河野のお二方も私と同世代で、バッハの音楽に傾倒しているという共通点があることがわかり、ともかくも次の濱田先生の出張時に合わせて4人で会いましょう、ということになりました。

そして73年の3月21日、4人は豊橋グランドホテルのレストランに集まって食事をともにしながら歓談したのですが、その日がバッハの誕生日であったことは当日の話題にはならず、後に知ったことです。初対面ながら私たち3人はその場で意気投合し、近い将来浜松・豊橋地域でバッハの音楽を演奏するという計画で意見が一致しました。

先生の助言により最初の一年はゼミナール形式で、バロック期の音楽を演奏するための基礎知識を共有しようということになり、河野様の尽力で豊橋駅に近い「ヤマハ音楽教室」をお借りして、「古典合唱音楽研究会」の名の下に活動を開始しました。講師は濱田先生、教材はH. シュッツの「宗教的合唱曲集(Geistliche Chormusik)」、参考文献としてR. Th. ダート「音楽の解釈」が選ばれ、講義と演習により当時の演奏習慣を学びました。それらの例を挙げれば、当時の音符の基本単位は八分音符（古典派以降は四分音符）であること、ダイナミクスの変化は声部の増減に対応する（バロックオルガンの発音原理と同じで *cresc.* *dim.*なし）こと、基本的にインテンポの音楽（*rit.*なし）であり、曲の終止に際しては音符の時価を2倍に拡大して演奏すること、等々です。今では当然のこととして受け取られていることも、当時の私には新鮮な驚きに満ちた知見でした。

ゼミナールは2ヶ月に一度、全部で6回行われ、若林・河野両氏の呼びかけで浜松・豊橋の地でバッハを愛する20人ほどのメンバーが参加していました。ゼミナールの修了後、このメンバーをコアにして豊橋に若林様を代表とする「ポリフォニカ・グレゴリアーナ」、浜松に河野様を代表とする「ポリフォニカ・アンブロジーアーナ」の姉妹団体が合唱団として発足したのが1974年のことです。

最初に取り上げたのはJ. S. バッハのカンタータ「目覚めよと呼ぶ声が聞こえ」BWV 140と「マニフィカート」BWV 243、練習はマニフィカート中の古い様式の合唱曲「Sicut locutus est」から始まりました。冒頭「第1、2小節で2分、4分、8分と音価が小さくなって行く構成に、スタートから次第に速度を増して、畳み掛けるような音楽の推進力が現れている」という濱田先生の解釈に感銘を受けたものです。

その年の10月、豊橋市民文化会館と当時成子にあった浜松カトリック教会で、二つの合唱団と器楽アンサンブル「カペラ・アカデミカ」による初の演奏会「バッハのタバ」が開催されました。この演奏会は浜松・豊橋における本格的なバッハ演奏の嚆矢と言うべきもので、これを機にバッハ作品の連続演奏を関係者の期待はふくらみましたが、同時にそれは困難に満ちたその後10年間にわたる音楽活動のスタートでもありました。

今から思えばそれは早すぎたスタートであり、大きな夢を実現するにはあまりに脆弱な基盤であったのでしょう。二つの合唱団は76年に豊橋・浜松で行った「マイ受難曲」の公演後から慢性的な財政危機に直面し、1984年ついに活動停止のやむなきに至りました。しかしその「志」は本日皆様がお聴きになる「浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブル」の演奏にしっかりと引き継がれ、今も生きているのです。



浜松初の本格的なバッハの演奏会「バッハのタバ」 1974年10月25日 浜松市成子町 旧カトリック教会聖堂にて
指揮：濱田徳昭 独唱者：鳥居直子・秋吉千枝子・西垣俊朗・芳賀義光
管弦楽：カペラ・アカデミカ 合唱：ポリフォニカ・アンブロジーアーナ ポリフォニカ・グレゴリアーナ

作曲年代：1724～50年（転用された原曲の作曲年代も考慮すると1714～50年）。

従来は「フーガの技法」BWV1080のBACHの主題入りの未完のフーガ、または「ライプツィヒ・オルガン・コラール」第18曲BWV668がバッハの最後の作品とされていましたが、その後の研究によりバッハは最後まで「ミサ曲短調」に関わっていたらしいとのこと。この結果、各部の成立は以下ようになります。バッハの存命中に全曲通して演奏されたことはないようです。

MISSA (Kyrie, Gloria) 1733年ザクセン選帝侯に宮廷作曲家の称号を求める嘆願書と共に献呈

SYMBOLUM NICENUM 1749年

SANCTUS 1724年クリスマス用

OSANNA, BENEDICTUS, 1749年

歌詞：ラテン語ミサ通常文（一部改変）。本日の演奏ではドイツ語式発音を用います。

編成：トランペット I - III、ホルン、ティンパニ、フルート I/II、オーボエ I - III、ファゴット I/II、バイオリン I/II、ビオラ、通奏低音（ファゴット、チェロ、コントラバス、オルガン）、独唱 5 (SI, SII, A, T, B)、合唱 4～8部

使用楽譜：全音楽譜出版社「ベーレンライター・ヴォーカル・スコア-2」（新バッハ全集準拠版）

MISSA

ミサ

1. Coro

Kyrie, eleison.

1. 合唱

主よ、憐れんでください。

ロ短調、4/4拍子：フルート I/II、オーボエ・ダモーレ I/II、ファゴット、バイオリン I/II、ビオラ、通奏低音、合唱 5部 (SI, SII, A, T, B)。多旋律主題は J.H. ヴィルデラーの「ト短調ミサ曲」に由来。

2. Soprano I・II

Christe, eleison.

2. 二重唱：ソプラノ I・II

キリストよ、憐れんでください。

ニ長調、4/4拍子：バイオリン斉奏、通奏低音。

3. Coro

Kyrie, eleison.

3. 合唱

主よ、憐れんでください。

嬰へ短調、4/2拍子：フルート、オーボエ・ダモーレ I/II、ファゴット、バイオリン I/II、ビオラ、通奏低音、合唱 4部 (S, A, T, B)。

4 - 5. Coro

Gloria in excelsis Deo.

Et in terra pax

hominibus bonae voluntatis.

4 - 5. 合唱

いと高きところでは神に栄光あれ。

そして地上では善意の人々に平和あれ。

ニ長調、3/8(4.)～4/4(5.)拍子：トランペット I - III、ティンパニ、フルート I/II、オーボエ I/II、ファゴット、バイオリン I/II、ビオラ、通奏低音、合唱 5部。

6. Soprano II

Laudamus te, benedicimus te,
adoramus te, glorificamus te.

6. ソプラノ II 独唱

あなたをお誉めします、あなたを讃えます、
あなたを拝みます、あなたを崇めます。

イ長調、4/4拍子：バイオリン独奏と I/II、ビオラ、通奏低音。

7. Coro 7. 合唱

Gratias agimus tibi

propter magnam gloriam tuam.

あなたに感謝を捧げます、

あなたの大いなる栄光のゆえに。

ニ長調、4/2拍子：トランペット I - III、ティンパニ、フルート、オーボエ I/II、ファゴット、バイオリン I/II、ビオラ、通奏低音、合唱 4部。原曲-BWV29/2 (1731)。

8. Soprano I・Tenore

Domine Deus, Rex coelestis,

Deus Pater omnipotens.

Domine Fili unigenite, Jesu Christe altissime.

Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.

8. 二重唱:ソプラノI・テノール

神なる主、天の王、

全能の父なる神よ、

主の独り子、いと高きイエス・キリスト。

神なる主、神の小羊、父の御子。

ト長調、4/4 拍子:フルート独奏、バイオリン I/II 弱音器付き、ビオラ弱音器付き、通奏低音。
下線部:ミサ通常文にはない単語です。二重唱化する際の音節数合わせのため挿入されました。
次の曲に切れ目なく続きます。 原曲-BWV193a (1727)。

9. Coro**Qui tollis peccata mundi,****miserere nobis.****Qui tollis peccata mundi,****suscipe deprecationem nostram.****9. 合唱**

世の罪を除かれた方よ、

私たちを憐れんでください。

世の罪を除かれた方よ、

私たちの願いを聞き入れてください。

ロ短調、3/4 拍子:フルート I/II、バイオリン I/II、ビオラ、通奏低音、合唱4部。 原曲-BWV46/1 (1723)。

10. Alto

Qui sedes ad dexteram Patris,

miserere nobis.

10. アルト独唱

父の右に座られる方よ、

私たちを憐れんでください。

ロ短調、6/8 拍子:オーボエ・ダモーレ独奏、バイオリン I/II、ビオラ、通奏低音。

11. Basso

Quoniam tu solus sanctus, tu solus Dominus,

tu solus altissimus, Jesu Christe.

11. バス独唱

それはあなただけが聖であり、あなただけが主、

あなただけが最も高い、イエス・キリスト。

ニ長調、3/4 拍子:ホルン独奏、ファゴット I/II、通奏低音。 次の曲に切れ目なく続きます。

12. Coro**Cum Sancto Spiritu****in gloria Dei Patris, amen.****12. 合唱**

聖霊とともに

父なる神の栄光のうちに、真に。

ニ長調、3/4 拍子:トランペット I-III、ティンパニ、フルート I/II、オーボエ I/II、ファゴット、
バイオリン I/II、ビオラ、通奏低音、合唱5部。
下線部:元はヘブライ語で「そうであるように」という意味を持ちます。

Intermission

休憩

SYMBOLUM NICENUM**1. Coro****Credo in unum Deum.****ニケア信条****1. 合唱**

(私は)信じる、唯一の神を。

イ長調、4/2 拍子:バイオリン I/II、通奏低音、合唱5部。

2. Coro**Patrem omnipotentem,****factorem coeli et terrae,****visibilium omnium et invisibilium.****2. 合唱**

全能の父、

天と地、

見えるもの全てと見えぬものの造り主。

ニ長調、2/2 拍子:トランペット I-III、ティンパニ、オーボエ I/II、バイオリン I/II、ビオラ、
通奏低音、合唱4部。
原曲-BWV171/1 (1729)。

3. Soprano I・Alto

Et in unum Dominum Jesum Christum,
Filius Dei unigenitus
et ex Patre natus ante omnia saecula.
Deum de Deo, lumen de lumine,
Deum verum de Deo vero,
genitum, non factum
consubstantialem Patri,
per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines,
et propter nostram salutem
descendit de caelis.

ト長調、4/4 拍子:オーボエ・ダモーレ I/II、バイオリン I/II、ビオラ、通奏低音。

4. Coro

**Et incarnatus est de Spiritu sancto
ex Maria virgine, et homo factus est.**

ロ短調、3/4 拍子:バイオリン I/II、通奏低音、合唱5部。

5. Coro

**Crucifixus etiam pro nobis
sub Pontio Pilato,
passus, et sepultus est.**

ホ短調、3/2 拍子:フルート I/II、バイオリン I/II、ビオラ、通奏低音、合唱4部。 原曲-BWV12/2 (1714)。

6. Coro

**Et resurrexit tertia die
secundum scripturas;
et ascendit in caelum,
sedet ad dexteram Dei Patris,
et iterum venturus est cum gloria
judicare vivos et mortuos,
cujus regni non erit finis.**

ニ長調、3/4 拍子:トランペット I-III、ティンパニ、フルート I/II、オーボエ I/II、バイオリン I/II、
ビオラ、通奏低音、合唱5部。下線部:ミサ通常文にはない単語です。 原曲-BWV Anh.9/1 (1727)

7. Basso

Et in Spiritum sanctum
Dominum et vivificantem,
qui ex Patre Filioque procedit;
qui cum Patre et Filio simul adoratur
et conglorificatur;
qui locutus est per prophetas.
Et unam sanctam catholicam
et apostolicam ecclesiam.

イ長調、6/8 拍子:オーボエ・ダモーレ I/II、通奏低音。

8. Coro

**Confiteor unum baptisma
in remissionem peccatorum.
Et expecto resurrectionem mortuorum**

嬰へ短調、2/2 拍子:通奏低音、合唱5部。次の曲に切れ目なく続きます。

3. 二重唱:ソプラノI・アルト

更に唯一の主イエス・キリスト、
神の独り子を(私は信じる)。
そして(イエスは)全ての世の前に父より生まれた。
神の神、光の光、
まことの神のまことの神、
造られることなく生まれ、
全てを造られた父と一体となった。

彼(イエス)は私たち人類のために、
また私たちの救いのために
天より下って来られた。

4. 合唱

そして聖霊により肉体を受け
処女マリアより生れ、人と成られた。

5. 合唱

私たちのためポンチオ・ピラトのもと、
十字架に付けられ、
苦しみを受け、そして葬られた。

6. 合唱

そして聖書の通り第三日目に蘇り、

そして天に昇り、
神なる父の右に座られた。
そして栄光とともに再び来られ
生ける者と死せる者を裁かれる。
彼の王国は終わることはない。

7. バス独唱

更に(私は信じる、)聖なる霊、
主でありまた生命を与えてくださるものを。
それは父と子より出て、
それは父と子とともに同様に拝まれ、
また崇められ、
それは予言者により語られた。
そして(私は信じる、)唯一、神聖、公にして
使徒継承の教会を。

8. 合唱

(私は)唯一の洗礼を認める。
(それは)罪の許しを得るためである。
そして(私は)死者の蘇りと...

9. Coro
Et expecto resurrectionem mortuorum
et vitam venturi saeculi, amen.

9. 合唱
そして(私は)死者の蘇りと
来世の生命を待ち望む。真に。

ニ長調、2/2 拍子:トランペット I - III、ティンパニ、フルート I/II、オーボエ I/II、バイオリン I/II、
ビオラ、通奏低音、合唱5部。 原曲-BWV120/2 (1728)。

SANCTUS

サンクトゥス

Coro
Sanctus, sanctus, sanctus,
sanctus Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt coeli et terra gloria ejus.

合唱
聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
聖なるかな、万軍の神なる主。
彼(神)の栄光は天と地に満ちる。

ニ長調、4/4-3/8 拍子:トランペット I - III、ティンパニ、オーボエ I - III、バイオリン I/II、ビオラ、
通奏低音、合唱6部。
下線部:ミサ通常文では "tua"「あなたの」となっています。

OSANNA, BENEDICTUS,
AGNUS DEI
ET DONA NOBIS PACEM

オザンナ、ベネディクトゥス、
アグヌス・デイと
ドナ・ノビス・パーツェム

1. Coro
Osanna in excelsis.

1. 合唱
いと高きところに居ます方に万歳。

ニ長調、3/8 拍子:トランペット I - III、ティンパニ、フルート I/II、オーボエ I/II、バイオリン I/II、
ビオラ、通奏低音、合唱8部 (S, A, T, B: I/II)。
下線部:元はヘブライ語で<ホシアナ>、「救いたまえ」という意味を持ちます。
原曲-BWV Anh.11/1 (1732)、これは BWV215/1 (1732)の原曲でもあります。

2. Tenore
Benedictus qui venit in nomine Domini.

2. テノール独唱
主の御名によって来られる方は祝福されますように。

ロ短調、3/4 拍子:フルート独奏、通奏低音。
助奏楽器は旧全集ではバイオリン独奏でした(K.リヒターの 1961 年の録音など)。

3. Coro ('Osanna' repetatur)

3. 合唱('オザンナ'繰り返し)

4. Alto
Agnus Dei qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.

4. アルト独唱
神の小羊、世の罪を除かれる方よ、
私たちに憐れんでください。

ト短調、4/4 拍子:バイオリン斉奏、通奏低音。 原曲-BWV11/4 (1735)。

5. Coro
Dona nobis pacem.

5. 合唱
私たちに平和をお与えください。

ニ長調、4/2 拍子:トランペット I - III、ティンパニ、フルート、オーボエ I/II、バイオリン I/II、
ビオラ、通奏低音、合唱4部 (S, A, T, B)。 原曲-BWV29/2 (1731)。

- 参考 ・概説-G.レオンハルト指揮の同曲 CD (BVCD-7003-04)の添付解説-著・W.Blankenburg/訳・佐々木節夫。
・歌詞対訳-音楽之友社「合唱事典」ミサ通常文対訳。
・曲番号-新バッハ全集準拠の楽譜に準じました。
・原曲(転用関係)-東京書籍「バッハ事典」

浜松のバッハ40年・演奏活動年譜 (主要コンサートののみ)

グループ	上演日	上演曲目	指揮者	独唱者	上演会場
豊橋 ポリリ フオ ニカ ・ア グ ン レ ゴ リ ジ ア ー ナ	1973.3.21	古典合唱音楽研究会発足			
	1974.10.25	第1回演奏会 「バッハのタペ」 バッハ 「カンタータ140番」 「マニフィカート」	濱田徳昭	鳥居直子/秋吉千枝子 西垣俊朗/芳賀義光	カトリック浜松教会
	1975.4.19	第2回演奏会 バッハ 「復活祭オラトリオ」 「カンタータ21番」	濱田徳昭	鳥居直子/上島京子 西垣俊朗/芳賀義光	浜松市民会館
	1976.3.21	第3回演奏会 バッハ 「マタイ受難曲」	濱田徳昭	西垣俊朗/渡部成也 清水信子/上島京子/平野滝彦	浜松市民会館
	1976.12.14	第4回演奏会 ヘンデル 「メサイア」	濱田徳昭	調査中	浜松市民会館
	1977.11.21	第5回演奏会 バッハ 「ミサ曲口短調」	濱田徳昭	清水信子/佐藤安子 西垣俊朗/渡部成也	浜松市民会館
	1978.10.11	第6回演奏会 バッハ 「ヨハネ受難曲」	濱田徳昭	西垣俊朗/渡部成也 大川隆子/荘知世恵/平野滝彦	浜松市民会館
	1978.12.12	市民クリスマス ヘンデル 「メサイア」	濱田徳昭	藤井多恵子/藤田みどり 藤沼昭彦/大島謙夫	浜松市民会館
	1979.11.2	第7回演奏会 モーツァルト 「レクイエム」	濱田徳昭	酒井美津子/小見佳子 佐々木正利/渡部成哉	浜松市民会館
	1980.2.14~2.19	日本オラトリオ連盟 第1回 渡欧公演 バッハ 「マタイ受難曲」	濱田徳昭	ローザンヌ、チューリッヒ、ウィーン	
	1980.11.4	第8回演奏会(日本オラトリオ連盟公演) (コーロ・モンテヴェルディとして参加) モンテヴェルディ 「ヴェスプロ」	濱田徳昭	山田百合子/中島史子/座光寺哲 鈴木真一/吉田征夫/高橋啓三/渡部成也	浜松市民会館
	1981.10.17	日本オラトリオ連盟第2回渡欧記念公演 バッハ 「ミサ曲口短調」	濱田徳昭	魚瀬明子/山田恵子/嶋守洋子 座光寺哲/佐藤 裕/根深善文	豊橋労働福祉会館
1982.5.16~5.23	日本オラトリオ連盟 第2回 渡欧公演 バッハ 「ミサ曲口短調」	濱田徳昭	ウィーン、ニュルンベルグ、ハンブルグ、ホルドー他		
浜松 スカ カラ ・ミ カン ・カ ルト ム	1980.6.29	JSバッハ「カンタータのタペ」 BWV 4, BWV140, BWV182	濱田徳昭	酒井美知江/西山やす子 座光寺哲/小真善作	カトリック浜松教会
	1981.6.21	オリジナル楽器による本邦初演 ヘンデル「メサイア」	濱田徳昭	神谷さゆり/酒井美知江 日佐戸陽子/岩瀬佳子 藤島一郎/座光寺哲 名倉英治/小真善作	カトリック浜松教会
	1982.6.27	バッハ「ミサ曲口短調」	濱田徳昭	西山美紀/山田恵子 一丸百合子/山田恵子 座光寺哲 杉野達也/藤島一郎	浜北文化センター
	1983.6.18	バッハ「ヨハネ受難曲」	濱田徳昭	西垣俊朗/渡部成哉 阿部陽子/小見佳子	浜北文化センター
	1984.6.30	日本オラトリオ連盟第3回渡欧記念公演 ヘンデル「メサイア」	濱田徳昭	山本智子/太刀川昭 座光寺哲/高井 治	浜松市勤労会館
	1985.4.6	バッハ生誕300年記念 バッハ「ミサ曲口短調」	濱田徳昭	藤本章子/山田恵子 西垣俊朗/高井 治	浜松市福祉文化会館
豊橋 バッ ハ ア ン サ ン プ ル 研 究 会	1985.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1~3部	河野周平	山本智子/酒井美知江 座光寺哲/渡部成哉	遠州栄光教会
	1986.12.22	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1~3部	河野周平	坂野多巳予/酒井美知江 西垣俊朗/渡部成哉	遠州栄光教会
	1988.3.21	バッハ「マタイ受難曲」一部割愛	河野周平	西垣俊朗/渡部成哉/石津真理子 佐藤安子/座光寺哲/平野滝彦	福祉文化会館
	1988.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第4~6部	河野周平	高田晴代/佐藤安子 座光寺哲/高井 治	遠州栄光教会
	1990.10.7	創立5周年記念コンサート バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	蒲原史子/寺尾美穂/佐藤安子 西垣俊朗/牧野正人	福祉文化会館
	1990.12.16	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1~3部	三澤洋史	佐地多美/寺尾美穂 木下基樹/高井 治	遠州栄光教会
	1992.3.22	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	木下基樹/鈴木勲/クラウス・オッカー 山田美津子/佐藤安子	福祉文化会館
	1993.3.21	ヘンデル「メサイア」	三澤洋史	山田美津子/佐藤安子 西垣俊朗/クラウス・オッカー	福祉文化会館
	1994.6.12	「無伴奏合唱への誘い」 Wバード「4声のミサ」 JSバッハ 「モテト BWV225 & 229」	三澤洋史	合唱のみ	遠州栄光教会
1995.1.22	「ニューイヤーコンサート」バッハ名曲選他 第1部・ヴィクトリアとシュッツのモテト 第2部・JSバッハのモテト BWV225 第3部・合唱によるJSバッハの名曲 第4部・JSバッハの教会カンタータより	三澤洋史	合唱のみ	遠州栄光教会	

浜 豊 橋 バ ッ ハ 研 究 会 サ ン プ ル	1996.2.18	創立10周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」全曲	三澤洋史	須安利秀/渡部成哉/山田美津子 佐藤女子/小田 薫/長谷川 暲	アクト中ホール
	1997.2.16	バッハ「マニフィカート」 モーツァルト「レクイエム(バイヤー版)」	三澤洋史	田村麻子/小田 薫 西垣俊朗/長谷川 暲	アクト中ホール
	1998.4.5	バッハ：BWV227、BWV106、BWV131他	三澤洋史	小田 薫/西垣俊朗/長谷川 暲	福祉文化会館
	2000.2.13	バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	藤崎美苗/永島陽子 西垣俊朗/長谷川 暲	アクト中ホール
	2000.12.29- 2001.1.8	ドイツ演奏旅行	三澤洋史	藤崎美苗/山下牧子 望月哲也/初鹿野剛	
	2000.12.31	ドルンハイム バルトロメ教会 (バッハが結婚式を挙げた教会)		モテット第6番奉納演奏	
	2001.1.1	アルンシュタット バッハ教会 (バッハが最初に職を得た教会)		ジルベスタ・コンサート出演 モテット第6番、カンタータ第171番を演奏	
	2001.1.2	アイゼナハ ゲオルグ教会 (バッハが洗礼を受けた教会)		新年礼拝にてクリスマスオラトリオ第4部の合唱曲を演奏	
	2001.1.2	エアフルト シャウシュピールハウス (バッハ一族の本拠地)		「口短調ミサ曲」演奏会開催	
	2001.1.3	ナウムブルグ ヴェンツェル教会 (バッハが理想とするオルガンが現存)		モテット第6番奉納演奏	
	2001.1.4	ハレ マルクト教会 (ヘンデルが学び、バッハの息子が活躍)		「口短調ミサ曲」演奏会開催	
	2001.1.5	ライプツヒ 聖トーマス教会 (バッハが晩年の27年を過ごした聖地)		水曜日のモテットミサ演奏を担当 モテット第6番、カンタータ第171番	
	2001.1.6	ライプツヒ 聖トーマス教会 (バッハが晩年の27年を過ごした聖地)		金曜日のモテットミサ演奏を担当 モテット第6番、カンタータ第65番	
	2001.4.22	バッハ「復活祭オラトリオ」BWV249 カンタータBWV80、モテットBWV228 & 230	三澤洋史	藤崎美苗/永島陽子 西垣俊朗/初鹿野剛	アクト中ホール
2003.2.23	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	西垣俊朗/小原浄二 藤崎美苗/永島陽子/初鹿野剛	アクト中ホール	
2005. ^{9.25} 2.28	創立20周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」	三澤洋史	植木紀夫/長谷川 暲 藤崎美苗/永島陽子/初鹿野剛	アクト中ホール	
2006.12.23	バッハ「クリスマスオラトリオ」第1～3部	三澤洋史	大谷知佳子/朴 瑛美 西垣俊朗/西垣俊祐	カトリック浜松教会	
2007.11.10	「とってもBachな午後をあなたに」 バッハ「カンタータ140、147 ミサ曲A-Dur」	三澤洋史	飯田みち代/渡部菜津美 神田豊壽/塩入功司	福祉交流センターホール	
2010.1.17	創立25周年記念コンサートNo.1 ヘンデル「メサイア」	三澤洋史	園光明子/三輪陽子 大槻孝志/初鹿野剛	アクト中ホール	
2010.12.23	創立25周年記念コンサートNo.2 クリスマスコンサート バッハ「マニフィカート Es-Dur」他	三澤洋史	大谷知佳子/三輪陽子 西垣俊朗/河野真剛	カトリック浜松教会	
2012.10.20	浜松のバッハ40年記念 バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	園光ともこ/三輪陽子 畑 謙文/初鹿野剛	アクト中ホール	

合唱団メンバー募集

今後の練習予定曲目

J. S. バッハ 「モテット」

クリスマス・オラトリオ

マタイ受難曲 他

浜松バッハ研究会

練習日：毎週土曜日 19:00～21:30

会 場：積志公民館

会 費：月額 2,500 円

連絡先：河野周平 ☎053-585-3364

<http://music.geocities.jp/hamamatsubach/>

豊橋バッハアンサンブル

練習日：毎週金曜日 20:00～22:00

会 場：新川小学校

会 費：月額 2,500 円

連絡先：安井研一 ☎0532-47-0676

<http://www.geocities.jp/bach0532/>

浜松のバッハ 40 年に私が関わりを持ったのは 1979 年浜松スコラカントルムの発足からである。浜松の国立大学 [旧名称]としては静岡大学工学部があったが、医科大学[医学部]のない県を解消しようとの政策により 1974 年国立の浜松医科大学が誕生した。私は第 1 期の入学生である。

スコラは学校、カントルムは歌を意味するが、医大誕生から 3 年目の 1976 年大学の合唱部が生まれた。1979 年日本屈指のバロック音楽指導者故濱田徳昭氏の教えをいただくとともに、浜松スコラカントルム[浜松医科大学合唱部]と称するようになった。

浜松スコラカントルムによる J.S.バッハ作品の初回演奏会は 1980 年 6 月 29 日、演目は教会カンタータ 3 曲。BWV4 “キリストは死の縄目につながれたり”、BWV182 “天の王よ喜びて汝を迎えん”、BWV140 “目覚めよと呼ぶ声が聞こえる”であった。その後濱田氏の主宰する日本オラトリオ連盟の第 2 回渡欧公演演目との関係で 1982 年 6 月 27 日 J.S.バッハ作品 2 回目の演奏会ではミサ曲口短調を演じることとなった。前年 6 月のヘンデルのメサイア上演から 1 年、大学の新生生にとっては 4 月から 3 ヶ月足らずの準備でステージへ[しかも暗譜]。現役学生約 25 名、卒業生・社会人約 25 名、独唱者も合唱団員から出て緊張の中にも充実した演奏を経験できた。

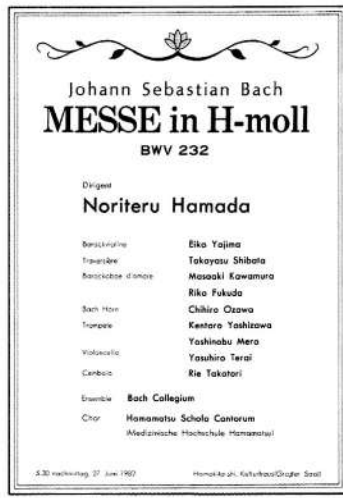
卒業生・社会人団員の増加、日本オラトリオ連盟所属団体との交流などの要因から大学部活動の域を越えざるを得ず、浜松スコラカントルムの名は浜松医科大学合唱部の名称として残り浜松アカデミアカントルムが 1984 年 3 月、22 名のメンバーで設立された。アカデミアカントルムの演奏歴は日本オラトリオ連盟第 3 回及び第 4 回渡欧公演に連動して 1984 年メサイア、1985 年ミサ曲口短調を地元開催した[当時自由席券 2000 円で約 30 年間チケット代値上がりなし!]。1985 年 12 月に J.S.バッハ生誕 300 年の締めくくりとして東京のヨハネ受難曲、マタイ受難曲連続演奏会にメンバーの一部が参加した。これで浜松アカデミアカントルムの存在意義を果たしたとして、その年のクリスマスに浜松バッハ研究会にたすきを渡したのである。

浜松バッハ研究会になってからのミサ曲口短調の演奏歴は 1990 年三澤洋史氏との所謂 “エンゲージコンサート”に始まり、2000 年から 2001 年にかけてのドイツ演奏旅行と続き、浜松のバッハ 40 年のうちでも節目をつくる演目と言えよう。本日の演奏が浜松のバッハ 50 年へ向けてどのように舵を取っていくのか楽しみである。

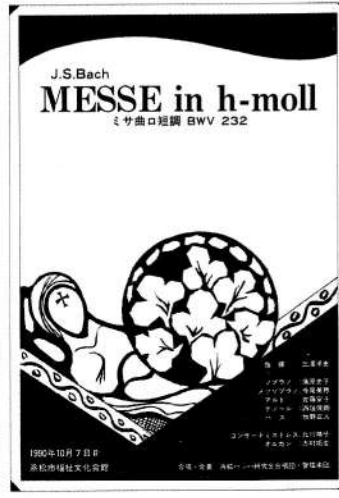
浜松でのこれまでの主なミサ曲口短調演奏会のプログラム表紙



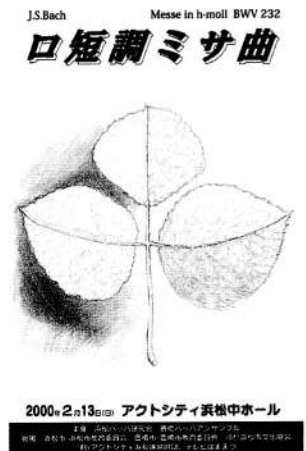
1977 年
浜松ポリフォニック
アンブロジーナ



1982 年
浜松スコラ・カントルム



1990 年
浜松バッハ研究会



2000 年
浜松バッハ研究会

このコンサートに ご協賛・ご支援いただいた方々

- | | |
|-------------|-------------|
| 秋山損害保険事務所 様 | 臼井 溢 様 |
| 内山眼科クリニック様 | 川島 順三 様 |
| 岡部 比呂男 様 | 松井 睦夫 様 |
| 山本 和子 様 | 児玉 久司 様 |
| 伊藤 以知郎 様 | 藤島 一郎・百合子 様 |
| 座光寺 哲 様 | 藤本 正也 様 |

皆さまからの温かいご支援に対し、メンバー一同心から御礼申し上げます。